

～特定外来生物駆除のため～

つくし湖の水位を低下させ駆除を実施

令和元年9月中旬からつくし湖（南椎尾調整池）の水位を約2mほど低下させ、カワヒバリガイの駆除作業を行っています。

カワヒバリガイとは、環境省が指定する特定外来生物で中国南部や朝鮮半島原産の淡水付着性二枚貝です。殻長は成貝で30mm程度の小型の貝であり、日本における寿命は3年程度とされています。

カワヒバリガイは、足糸という繊維状物質を分泌して硬い基盤（岩、コンクリート、鉄等）に付着し、生活します。



カワヒバリガイ（成貝）

10 mm

霞ヶ浦用水施設においては、コンクリート壁面や除塵用スクリーンに付着し、通水障害を引き起こしたり、死貝がパイプに流れ込み、閉塞し、通水障害を引き起こしています。

1週間ほど天日干しにし、死滅させたものをはぎ取っています。

【現在の状況】10月1日現在

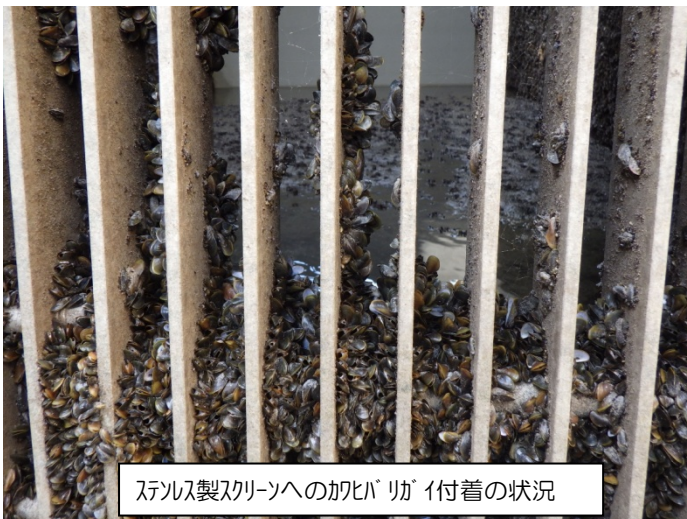
コンクリート壁に付着したカワヒバリガイ除去の様子



コンクリート壁に付着したカワヒバリガイ除去の様子



ステンレス製スクリーンへのカワヒバリガイ付着の状況



スクリーンに付着したカワヒバリガイ除去の状況

